

平成29年度 町政懇談会 高野地区

I. 日時・場所等

1. 開催日時 平成29年7月14日（金）午後7時～午後8時30分
2. 開催場所 高野公民館
3. 出席者 立山町 舟橋町長、朝倉副町長、大岩教育長、山元総務課長、
竹島建設課長、尾近建設課長補佐、青木教育課長、
中山農林課長補佐、松野水道課長補佐、青木住民課長
地元議員 村上紀義議員、澤井峰子議員
高野地区区長会 堀田陽房会長
企画政策課 清水課長、寺崎課長補佐、耕作主事、林主事、佐伯主事
4. 参加者数 41名

II. 実施内容

1. 挨拶

- ①司会 清水企画政策課長（以下、司会） 開会
- ②舟橋町長（以下、町長） 開会挨拶
- ③司会 出席者紹介

2. 懇談会

- (1) ・立山町公共施設等マネジメント計画 企画政策課長
・富山連携中枢都市圏 企画政策課長
- (2) 地区からの協議事項

◎ 少子化に伴う小学校の統廃合計画について

地区としては古く歴史のある高野小学校の存続を強く望んでおります。しかし、最近児童の減少によって休校となっている例もあり大変心配しているところです。町としての基本的な考え方と今後統廃合計画がどのように進められるのか？

【青木教育課長】

町の教育委員会では、今後の教育環境のあり方と適正配置について審議するために立山町立小学校適正配置検討審議会を立ち上げました。

平成25年度に開催したこの審議会では、10年後のビジョンに向かって子ども達にとってより良い教育環境はどうあるべきかを大前提とした立山町立小学校の適正規模・適正配置に関する答申がありました。

適正規模のポイントは、1学級の最小規模を20名程度とするということ、適正配置のポイントは、地理的なつながりや、町全体のバランスを重視するということです。

学校の適正化を進めるに当たっては、保護者や地域の皆様の理解が得られるように十分に話し合いながら進めることとしております。

学校統合の具体的な枠組みと目標年度につきましては、長期的な取り組みとして少子化の進行を見据えて平成 30 年度に再度、小学校適正配置検討審議会を開催し、平成 35 年度までの子どもの実数を把握したうえで、学校統合の枠組みを決定することとしております。

◎ 災害発生時における緊急避難場所について

①緊急避難場所は、高野小学校などが指定されているが、災害の程度にもよるが収容人数や負傷者の搬送、緊急物資の搬入等で町はどのような対応をとられるのか説明をお願いいたします。

②避難者の集合場所として体育館やグラウンドが考えられ、負傷者の搬送や緊急物資の搬入など、車の出入りが多くなります。小学校に進入する西側の道路幅が狭く、西から来た場合に緩い鋭角となっているため右折しにくくなっています。(押しボタン信号のところ) そういったことから道路の拡幅をお願いしたい。例えば、東側のグラウンドとの間に用水があります。あそこを暗渠にするなど道路幅を拡げていただけないか。また、周辺道路の整備や避難場所、特に体育館、グラウンドの施設の整備を併せてお願いいたします。高野の中心の最大避難場所でもあり、高野地区として是非改善をお願いいたします。

【山元総務課長】

災害時の指定避難場所は、現在、町全体で高野小学校や高野公民館などを含めまして計 50 施設を指定しています。収容人数は、高野小学校体育館で 240 名、高野公民館で 150 名を収容する計画としております。町全体の施設につきましては、それぞれ収容人数を定めておまして、災害の規模・範囲・対象者等に応じて開設する避難場所・避難所を決定していくこととしています。

けが人の方の搬送は、例えば大規模災害が発生した場合は、県内の消防機関と医療機関の方で取り決めしています指定された医療機関へ救急車あるいはヘリコプターで搬送することとなります。

緊急物資（食料・水・毛布等）は、町で備蓄をしているものをそれぞれ避難所へ持っていきます。なお、不足する場合は、物資の提供又は相互応援協定の締結先から受け入れて提供する計画としています。

【竹島建設課長】

小学校横の町道は、町道野町幅下線という名称で、現在の道路幅員は約 5.5m です。普通車両はすれ違いができる幅ですが、押しボタン式信号機のある箇所は県道日中・五百石線と鋭角に交わっていることから、交差点付近に車が停まっていると曲がりにくい状況です。

学校側に用水があり、蓋が無いため、そこに落ちないように慎重に曲がられるということだと思います。

県道交差点から高野小学校正門までは小学校への主要な通学路ですので、児童の安全確保を図る観点からも、水路の暗渠化も含めまして、道路を少しでも広げられないか検討していきます。

◎ 日中・沢端間の道路拡幅と歩道の設置について。

町道日中・沢端線のうち、通学路となっている箇所、下新と竹林について歩道の工事が行われると聞いております。現時点での工事の進捗状況を教えてください。橋の調査や歩道の土地の測量について役場や業者から回覧板がきておりますが、歩道の工事の進捗状況がわからないのでいつ頃できるのか心待ちにしているところです。早期の完成を待っております。また、日中・沢端間の道路拡幅計画についても併せてお願いいたします。

【竹島建設課長】

この道路は町道日中・田添線と言い、日の出屋製菓産業株式会社の北側交差点から中野合金株式会社前までの約 470m 区間に歩道を整備する計画として、平成 24 年度に事業着手いたしまして、平成 26 年度までに道路用地を取得させていただき、これまで中野合金株式会社側の約 170m の改良工事を終えております。

この区間に加えて、昨年度からは栃津川に架かる下竹橋の通行の安全確保を図るため、歩道橋の整備に着手しているところとございまして、河川に架かるものであり、河川を管理する富山県との協議を進めております。

また、橋と中野合金株式会社との間の用地につきましても歩道約 2.5m をつけることとしておりますので用地の測量などを進めているところです。

今後、関係者皆様の同意が得られれば、歩道橋の工事に着手していきたいと思っております。

(3) 質疑・応答

◎ 上米沢団地と江崎団地に大分前、アスベストが使われていたと聞きました。

ほんの数人ですが、できた当初から住んでおられる方は天井等を修理していかれた記憶はあるが、アスベスト対策の工事であったことは良く知らない感じであった。入居されて 5~6 年の方もおられますが、天井にアスベストが使われているのではないかと感じたということでした。また、アスベストが使われたことは聞いていないし知らなかった、工事がされたことも聞いていないという方もおられた。町では既に対策がされているでしょうが、入居される方へ情報が伝わっていないのではないかと思います。アスベストは発がん性が強く、吸い込んでもすぐに発病するわけではなく、20 年 30 年先に症状が現れて大変なことになると言う話が先ほどの NHK のニュースで

報道されていまして。町のほうで対策されたと聞いているが、アスベストが使われているという情報の提供をもれなくしていただきたい。現状がどうなっているか？

【竹島建設課長】

町営住宅にもアスベストが使われているところがございます。

アスベストは断熱材として使われていますが、最初から壁の中に封じ込めてあり、建設当時からアスベストはありますが露出はしていないという状況ですので、健康への被害は無いものと考えております。

ただ、ご指摘のとおり住民の方が知らないという状況につきましては町としてもこれまでお伝えしていなかったという反省点があります。

今回NHKのニュースとして全国的に取り上げられ、立山町だけではありませんが、各自治体で公営住宅をお持ちのところでもアスベストが使用されている事実はございますので、国のほうからも通知が近々くると聞いております。

町としても、しっかり受け止めまして今後の対策について取り組んでまいります。

- ◎ 都市計画というので新しくできた立山製紙の道、あれは非常に良くなってありがたいと思います。その延長沢端までの道ですが、都市計画の時には町を囲むような道路を整備するという話で、協議会が1回開かれたが、その後全然開かれないで新しい道ができた。その後県道の使い道で何かアイデアがないかという話があったが、その後話がない。また、平井石油と立山製紙の間の道が極端に狭く、曲がっている。整備を進めていただければと思います。できれば寺田に行く道のところに信号が欲しい。壁があって非常に危険である。

【竹島建設課長】

今の路線は、都市計画道路大日橋米沢線です。

町のほうで県道から西側の踏切を含む区間につきまして、昨年度から続いて工事させていただいています。踏切のところは拡げさせていただきました。

もともとは幅員が25mの計画道路で、現在は16mで整備しています。非常に広い土地で東側にも用地があります。東側につきましては、県道富山立山魚津線で県が管理しています。

特に平井石油さんまでの280m区間については狭い状況であります。町としては、県へこの区間の拡幅整備をお願いしております。

ただ一方、県からは幅員の整理も言われておりますので、町としては西側で整備したものを含めまして県へ引き続き整備を要望してまいります。

【町長】

今年夏の重要要望に入れておりまして、立山土木事務所、県の土木部にこの問題を取り上げて参りました。

用地は確保してあるので町も入らなければならないのですが都市計画道路上は片

側2車線の道路の計画であり、踏切のことを考えると現実的ではない。町だけでなく県にもやってもらうためには審議会を開かなければならない。やってくれるのであれば協力するという前向きな返事をもたらしていますのでもうちょっと待ってください。

同時に高野だけではなくて、あそこを整備しないと五百石1区からの要望がありました横断歩道も作れない状況になりますから、それにつきましては町のほうでもしっかりやっていきたいと思えます。

◎ 昨年一昨年と詰所・ポンプ車、今年度小型ポンプをいただけるということで本当に喜んでおります。私たちの詰所のところが防災無線が聞こえない。町長へもこの話をしておいて、上米沢・江崎が聞こえにくいということです。実際に私の会社が江崎にありまして、金剛新と野町と消防本部が同時になって、全く何をいつているか聞こえない。

提案であります、せつかく詰所ができましたのでそこに行政のスピーカーを付けて江崎・上米沢の方向を向けばいいのではないかと。電気が無くても本部と通信ができる電話、拡声器等がついておりますのでそのようなものがあれば消防としてしっかりした活動ができると思えます。高いものだと言っておりますができればお願いしたいと思えます。

【山元総務課長】

今ほど防災行政無線、子局と言いますが、そちらの方が消防団詰所に1つあれば非常に助かるということでお聞きをしました。

防災行政無線の子局につきましては、1基増設すると約650万円かかります。

放送が幅湊するという話がありましたが、たくさん建てれば聞こえるかといわれると、時間差がでたり、幅湊してわかりにくくなるという場合もあります。

実際のところは、設置を予定する場所を業者さんに確認していただいて手続きも必要となってきます。

お金の関係や、他の地区からも聞こえにくいということを何箇所か聞いておりますので合わせまして検討させていただきたいと思えます。

なお、防災行政無線が何を言っているかわからない場合は、放送が聞ける電話番号があります。076-462-0097です。

こちらに電話していただくと24時間以内の放送は聞けることになっております。

今4回線ございまして1人繋がっている場合にもお使いいただけます。

大規模地震が発生した場合、特に避難勧告・避難指示等を出す場合につきましては、電話で区長さんには連絡をいたしますが、それ以外に町ではエリアメールと言いまして携帯電話へ直接情報を流すことになっております。立山町の該当範囲におられる方全員に携帯で情報が流れます。

◎県立高校再編問題について、町議会での論議もありまして、町長の発案で雄山高校後援会が5月16日に設立されました。雄山高校は1学年4クラスですが、このままでは再編の話が必ずくると思っております。後援会に1人当たり年間2,000円という個人会費で会員になれるということですから、今作られた後援会の核になる方々以外にも拡げたらどうか。朝日はいろいろな取り組みをしていて、立山町も朝日町と連携の模索をされたらどうか。県教委はいろいろなところで話をすると聞いておりますので、県教委から教育長なり課長なり来ていただいて、県教委が考えている再編の考えを聞く会を計画してはどうか。

【清水企画政策課長】

会員になっていただきましてありがとうございます。

今日この会場にも設立の際にお越しいただいた方がたくさんおられまして重ねてお礼申し上げます。

事務局長を仰せつかりまして、まず会を作ろうと走ったものですから、具体的なことは未定であり、これから進めていきたいと思っております。理事の皆様と相談しながら進めてまいります。

◎先ほど町長が言われたように昨年大雨で栃津川の堤防、ちょうど竹林の辺りはすでに終わりました。直されたのは前と同じ石積みという形ですが、同じ雨が来た場合にまた崩れるのではないかという私の勝手な想定ですが、地域に大丈夫だよと安心できるようなお言葉があるかを聞かせてください。

【竹島建設課長】

災害復旧の基本的な考え方は原形復旧というのがあります。まずは元々の作りに戻すということです。

元々の護岸が弱いのであればしっかり積み直して基礎もしっかりさせてモルタル等で固めるという工事をやっておりますので、今回同じような雨が来ても大丈夫であると思っております。

皆様の安全安心のため、県にしっかりした工事をしていただくよう働きかけていきたいと思っております。

◎北九州のほう福岡大分で集中豪雨がありました。富山県はどちらかと言いますと災害の少ない県だということではありますが、だいたい3,000m級の山から海まで60kmくらいで、すごく急流である。避難勧告・避難指示について、先ほど町長が言われた犬山市が避難指示を出したということで避難地区に集まる訳ですが、危険水位になればその判断で避難勧告、次は避難指示ですよ。

先ほど防災無線が聞こえないということで、役場の職員、消防関係が交互に回って広報することになると思いますが、堤防が決壊するとなった場合には遅いわけで、避

難指示を出すときのジレンマというか、その判断をどのように考えているか。

【町長】

昨年の7月27日の未明にいくつか地域を指定しまして避難準備情報を発令しました。その時に出した自治体は私のところと富山市の水橋です。白岩川の水位がかなり上がったためです。

なお、3年前にも避難準備情報を芦峯寺と千垣に発令をしました。

避難準備情報を出す基準は、県砂防課と气象台と相談して土砂警戒情報というのを市町村長へ流してきます。土砂警戒情報がきた時点で避難勧告をしても良いというルールが決まっていますが、夜中になってくるとそれで逆に用水にはまって亡くなると怖いものですから、3年前私は勇気振り絞って避難準備情報を出してそのまま続けば避難勧告を出すところでしたが、他の市町村はあまり出されないということがありました。

だけど、私は全国の事例を見ていますと空振りも仕方ないから、マニュアルに沿ってこれからも避難準備情報は出していき、場合によっては避難勧告も出さなければならぬと思っています。

準備情報という言葉が紛らわしいということで、今は避難準備・高齢者等避難開始と、高齢者の方はすぐ避難してください、元気な方は準備してくださいという文言に変わったそうです。いずれにしてもマニュアル通りやっぺいこうと思います。

九州北部の雨は24時間で500mmを超えたそうです。今から48年前の昭和44年の災害では、4日間で1,000mmだそうです。段々、嵩が増えていって特に泉地域の一階が全部やられたという状況でありました。

今は、短時間で一気にということですから素早い決断をしないと余計な災害が起きます。气象台さんから私の携帯へ直接連絡してくれます。国土交通省の場合は常願寺川のほうですが、富山河川国道事務所からも立山町長に直接電話してくるという仕組みになっています。

特に2年前に常総市が避難勧告を間違えたことで、強制的に我々市町村長を焚きつけるようになってきております。

- ◎ 立山町の人口が平成27年から平成67年の間に8,000人減少するということですが、どうすればこれを防ぐことができるのか。それにはまず魅力ある立山町をつくるのが絶対欠かせません。魅力ある立山町とはいったい何か。町のほうでも大変苦労しておられますが、私はそれに加えて芸術文化・体育の町にしていくべきだと思います。そういう才能を持っている子どもたちを育てることが大事です。芸術文化系や体育系の大学へ行く子どもたちに対する奨学金を出すなどして、立山町の魅力を作り上げていくことが大事ではないでしょうか。

【町長】

人口減のグラフを見ていただいて、右上の表ですが、立山町で若者のピークが 16 歳くらいになっています。

つまり高校再編問題というのはこれです。13 歳～15 歳前後は結構います。

立山町だけではなく、富山県全体こんなグラフです。なぜ 15 歳 16 歳の子が多いかというと、43 歳前後の人が多く、それを団塊ジュニアと言います。その人たちの子どものピークが 13 歳から 15 歳前後です。今回第 1 回目として雄山高校は高校再編検討対象になっていないが、このままいくと次にくるのではないかと。だから魅力ある高校づくりに努めなければならないし、我々も応援しようというご発言をいただいたと思っています。雄山高校は実際、入学者のうち 3 分の 1 以下しか立山町民がいません。富山市の山室の方からたくさん来てもらっているおかげで雄山高校は定員を満たしていますが、逆に立山町の子どもたちが雄山高校に進学してくれて、定員割れさえしなければ頑張れると私は思っております。

次に女性の数です。24 歳が 87 人しかいません。25 歳も 84 人。どうしてこのようなことが起こるかと言いますと、私の娘も東京の女子大に行っていますが住民票を移していません。

卒業して、もし東京で就職が決まったら初めて住民票を移すつもりだそうです。つまり、突然 24 歳 25 歳で人口が減ったのではなくて、18 歳からこの人口です。

就職が決まった段階でそのまま東京、大阪に住民票を移すのでこうなっている。

どうしたら戻ってくるかということですが、まずは東京・大阪方面、県外の大学に行った子どもたちに帰ってきてもらう方法を考えなければならないと思いました。今年の事業計画に入れたのですが、ブリ奨学金という制度をやってみようと思います。

九州のほうの町が始めたのですが、今どき大学、県外に行くときには教育ローン、奨学金ですね。お金がかかりますから。統計によれば半分以上の人たちは借金しています。

卒業後、それを自分たちで払うのに苦労しているというのは全国でニュースになっています。帰ってきたらローンを全額助成するという制度を氷見市さんが始めました。ただし、3 年間限定です。

それではあまり良くないので、教育ローン組んだ人は立山町に帰ってきたら 3 割助成する制度にしまして、募集をかけています。

財源はふるさと納税です。ふるさと納税と言っても企業です。企業版ふるさと納税というのがあります。今回、ある会社から 200 万円いただきました。その会社は遠くから立山町に進出してきたのに、人が集まらないということです。この制度では寄付してくれた会社に入ると 4 割助成するという制度にしています。

それがきっかけで教育ローンを組んで県外の大学へ行こうとなってくればそれはそれで意義があると思います。

生活に困っており、高校へも行けないというのもあります。そのパターンもつくり

ました。高校のうちから教育ローンを組みたいという方がおられます。それにつきましても高校卒業して立山町に住んでいれば、若しくは立山町の企業であればもっと良いですが、3割なり4割を助成する制度を始めたところでございます。

芸術系・体育系に限らず該当する学生がいたら申込むよう言っていただければと思います。

- ◎ これからこの小さな町がどのような方向で進めば良いのか、町長の大きな思いを簡単に一言述べていただければ我々の日頃の暮らしの励みになると思いますのでどうかよろしく願いいたします。

【町長】

団塊世代と言われる方がまだ70歳前後なのでまだ車も運転できるが、10年経つと運転できない人も増えるだろう。

その時に今の町営バスで全然足りませんし、お医者さんに通う人も増えるだろうから、足をどうするかが重要問題だと思っています。

今でも町営バスを動かすのに車購入費を別として年間2,000万円の税金を使っています。皆様方にとってはもっとバスを増やしてほしい、もしナビオバスが無くなったらどうしようと悩んでおられますから、この解決策を考えないとなかなか私自身政治活動をやれないなと思っています。

これまでどのようなことに努めてきたかと申しますと、とにかくわが町は財政力が弱いです。同じ人口規模の入善町に比べて10%悪いです。

なぜかという、入善町は昔から企業誘致を進めてこられましたので、景気が悪くならうが企業からの固定資産税が安定して入ります。10%の差は大きくて、国の補助金を頼りにせずに自分で好きな福祉や、道路を直すお金にも使えます。

この財源がほしいと思って就任以来、企業誘致に努めてきたところでございます。今はまだ、固定資産税の減免措置がありますから、何年かすると少しは効果があらわれると思いますが、まだまだ入善町や滑川市に比べて努力が足りないと思っています。

そういう意味では、前から言われている立山インターから上手のこの地域の方々のところ美田ではありますけれどもまとまった企業が来てほしいと思って担当者と方策を練っております。農林課、建設課そして商工観光課とやっています。是非努力したいと思っています。

2つ目に、農地の集約化をしっかりと図っていく。集約すれば集約するほど土地改良するときに地元負担金も減りますし、場合によっては0%という制度もあります。認定農業者若しくは法人組織のところに全部預けますとなった場合には、土地改良負担金は普段は11.5%の負担ですが、それが限りなく0%に近くなる。そういった土地改良を整備すれば大きな機械も入って一人の農家の方、若しくは会社組織が一度に多くの作業ができることとなります。そういう作業を進めて農地を守りたい、そしてや

る気のある方を応援していきたいと思っています。もちろん米の消費が減って米が売れなくなったらということもありますから、その減反分については、米の直接支払い交付金の7,500円は無くなりますけれども、代わりに産地交付金というお金が上積みされますので、アルプス農協と一緒に頑張ってしっかり手当していきたいと考えております。

昭和40年代50年代富樫町長、堀田町長の時代が目指した農業工業一体化というのはある意味では私も同じことを今やっているなと思っております。

あとは夢みたいな話でございますが、私が十何年前から言っている立山線が無くなってしまうと、この町はアウトだと経営できないと思っております。

そのためには雄山高校を残す、それと同時にアルペンルートにたくさんの観光客に電車に乗って来てもらうことによって電車をとにかく残す。

なぜ関係あるのかと言われると外国人、やっぱり新幹線のおかげですね。4月5月6月はすごく電車に乗る人が増えて、数年間で突然こうなったので地鉄さんは喜んでます。

この影響をどんどん増やして行って、地鉄立山線を廃線したいと言わせないようにこれからも努力しつつ、外国人の人たちに立山黒部アルペンルートを知ってもらうことによって立山町のお土産になるものを台湾等に特に売りたいという思いがあって昨年台湾の女性を採用し、営業をかけているところでございます。

アルプス農協さんも昨年一緒に米を持って台湾のスーパーへ売りに行きました。失敗はいっぱいありますが、失敗しながらもどんどん農産物を加工して外国に売ることによって今やっている農家の方々の所得を上げなければ小さな町、言われたとおり人口の少ない町は生き残れないと思っています。

3. 閉会の挨拶

堀田陽房会長

村上紀義議員

澤井峰子議員

閉会